慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ブルノオ・ヒルデブランドの一書簡:「共産党宣言」成立史の一資料
Sub Title	
Author	平井,新
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1927
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.21, No.6 (1927. 6) ,p.832(110)- 841(119)
JaLC DOI	10.14991/001.19270601-0110
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19270601-0110

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ブ デブ ラ ン **)**

共産黨宣言」成立史の一資料

平

Kommunistische Zeitschrift und andere Urkund.n aus den Jahren 1847-48"の如きは、唯一の權威ある の如きは著者共に警察官吏なるため、斯種の常として徒に爲にする虛構、揘造の節多く、後世研究者 Mayer の研究 三等何れも重要なる根本資料たるを失はないが、其の何れも簡にして且つ黨派に偏し Vogt, 1860. Marx, Enthüllungen über den Kommunistenprozeß in Köln に於ける Engelsの序文、Mehring の典據とす可き事質の眞相を傳ふることが少ない。この點に於いて Carl Grünberg, "Die Londoner 最も肝要である(一)。 然るに之に關する信賴すべき研究は從來極めて少ない。 ればならない。就中マルクス及びエンゲルス加盟前後の倫敦正義者同盟の質情を審かにすることがればならない。就中マルクス及びエンゲルス加盟前後の倫敦正義者同盟の質情を審かにすることが 「共産黨宣言」成立の經緯を明かにするためには怎りしても亡命者同盟並に正義者同盟に溯らなけ スに對して寬に、 あるが、之とて聊か隔靴搔庠の戯なきを得ない。 Wermuth und Stieber, Die Kommunistenverschwörungen des neunzehnten Jahrhunderts. 1853 前代の社會主義殊にワイトリング等の功績を認むるに除りに答かなるやの 殊に史質の解釋動うもすればマルクス、エ Karl Marx O Heri 鼤 ン

スの見解特に「英國に於ける勞働者階級の狀態」の批評に割愛されてゐる。 間は略~解決される。本書の大部分は社會主義學説の論評に當てられ殊に其約三分の一はエンゲル 應誰にも起る尤もな疑問であるが、 Sozialismus und der Aroeiterbewegung "11. Jahrg. 3. brundの遺稿中より圖らずも之に關する得難き史料を發見して之を "Archiv für die Geschichte des 印象記とも称すべき一書簡である。この書簡は當日會議の光景を極めて如實に描き出してゐる。 四月十四 簡の筆者が 方面に没頭し、 の討議に關する根本資料を提供するあつて(四)。此方面の詳細な研究を促してゐる。 筆者は久しく此 Max Nettlau があ ||者同盟の募兵地たる勞働者敎育倶樂部の大會に自ら親しく出席したのは決して彼の好事心に出で 彼は研究の完璧を期するため單身英國に涉り、備に材料の蒐集と實狀の踏査とに費した。彼が正 斯樣に社會主義嫌のヒルデブランドが如何なる動機から共産主義者の會合に出席したか。之は一 では無くして、等ろ自家研究の一助に資せんためであつた。 る。曩に 日の倫敦共産主義勞働者教育俱樂部大會に出席して其翌十五日に認めたヒルデブランドの 當代隨一の經濟學者であり又大の社會主義嫌であるだけに一入の興味を唆られる。 は一八四五年四月乃至四六年一月倫敦共産主義勞働者敎育俱樂部で行はれた同盟綱領 Ernst Drahn は同盟の一八四六年十一月、一八四七年二月の兩宣言書を發見しCm)、最近 今多少の稿を得てゐる 彼が不朽の名著「現代及將來の經濟學」を播くことに依てこの疑 近〜又 Karl Grünberg は歴史派經濟學の巨匠 Heft 1925 に掲載した。其れは一八四六年 此批評に到達するに先立 Bruno Hilde

くまで經濟的自由主義に反對した彼は、政治上に於いては、 八三三 ブルノオ・ヒルデアランドの一書簡 反對に可成り徹底した自由主義者

彈壓に會つた。一八四六年英國に渉り。 一國の喧騒を逃れて、静かに自由の空氣を吸ふためであつたと言はれてゐる(五)。 った。是が ため彼は ブラスラウ、ライ 殊更此 プチヒ兩大學の學生時代より後年に到るまで屢ゝ官憲の 地で彼は復活祭を迎へたのであるが、 これは惟ふに

年四月十五 以下譯出 日となつてゐる。名宛人は無く而も文章が中途で終つてゐるのは吳くも遺憾に堪えない。 せんごする書簡は質に此滯爽中に書かれたもので、 日付は前記大會の翌日即ち一八四六

倫敦にて

一八四六年四月十五

である。 ない破目になった。 象の残つてゐ 色々と犬切な事柄を見聞したが、 る中に、二三の断片的な戯想を述べて、 小生は昨日倫敦の獨逸共産主義者俱樂部に出席したが以下はその見聞記 其都度滅多に御手紙 書き足りない旅行記の補ひをしなければなら も差 Ł げなかつた。 其んな譯 で の積り 鮮な印

待を受けたのである。其處で吾々は七時後一應シイガア。デイワン から一共に招待に應ずる約束をした。ディイゼンバッパは此邊の世故には大變通じてゐたがい ら未だ共産主義者の會合には出席した事はなかった。 地位に居る人に會つて其際小生の話をしたら早速彼から口傳でに友人と小生さが昨日の大會に招 生の女人デ 4 ゼンバ " D.esenbach が一昨日思ひ掛け無く、 そんな譯で否々は Cigar Diwan に落合つて。 此倶樂部の監督否 期待华分、 心配半 少くとも幹部 がし 年 分とい

所につか に戸口と向合って腰を掛け、吾々を招來して臭れたシュパア。Schapper を待つ間、 ふ調子で九時半頃俱樂部の在る場所に行つた。家の造りを見ると階下は、あり來りの麥酒店で、 ピアノ るる者もある。戸口が開く毎に新來者が這入て來る。こんな風で今少しすれば會議が始ることが一番自分の前に麥酒のコップを置いて、テエブ準備付のパイプで煙草を喫んでゐる。その邊りに立つ 室を探し當てたものだを思つた。 の室があつた。約二十人位づく其處此處に塊まつて席に就き、簡易な夕餉のパンを食べたり、或 く。如何にも立派であるが、其顔付は矢張爭はれぬもので、成程勞働階級の人達だなご領かれた。 タアや美味そうな麥酒を買つてゐるが別段い り分つた。参會者は何れもきちんとした服装をして、其の態度には殊更作り飾つた様子とては 用語は主として獨逸語であるが中には英語佛蘭西語を喋つてゐるものもある。室の隅にグラン **抜けて、階段を上ると階上には、ラエブルと椅子の敷から見れば約二百人位這入れそうな客間** のであつた。しかし自分は彼が内心得意氣に大學の敎授がなんだといふ風に私を看下ろして ペニイ包の煙草とを註文した。 髭は黑く。そして明るい射る様な目付で。押の强さうな態度であつた。ディゼンバッツの かゞ ~とやつて來た。僕は直ぐこの男が、後年瑞酉~西班牙で革命運動に參加したフランク 置いてあつて樂符が乗つかつてゐる。自分は之を見て音樂趣味の乏しい倫敦で全く善 公三元 パッパアだなさ思つた。 ブルノオ・ヒルデアランドの一書簡 く毎に新來者が這入て來る。こんな風で今少しすれ 來てゐる人達にはちつとも知合が無いので、人目の付かない樣 間も無く年恰好三十六歳位の背の高い、頑丈した男が這入て 私は彼と挨拶したが彼の態度は全く丁重で、その上親み 客の腰を下ろす場所とては見當らなかつ ば會議が始ることが 酒一盃とここの 72 共處を 坊

けるのは 後者の地位は唯だ消極的でい は誰でも入會の資格を持てゐるがい 部規約と書いてあつた。其れに依れば、 ある張紙を私に指示した。それを見ると倶樂部の規約が書いてある。其標題は獨逸勞働者敎育倶 るる は人間は精神を訓練して初めて自由と自覺に到達する事が出來ると云ふのである。毎夕教育を受 つは本來共產主義俱樂部會員で、 席するものである。前者だけ倶樂部の決議に出席し、監督を選出し新會員入會の贅否を決定する。 が必要である。 以上は規約の内容を、ほんの一寸覗いた儘、述べただけの事である。 から又屢ゝ地理と一共に自然科學的敎育が敎へられる。會員は敎育を受ける代りに一週五ジルから又屢ゝ地理と一共に自然科學的敎育が敎へられる。會員は敎育を受ける代りに一週五ジル グロッセン又は六ペンスの寄金をする。 のをよく悟ることが出來た。 セン)を寄金する。 六日目舞踏、七日目は特殊の共産主義的政策の教授を受ける。教授課目は半年毎に變はる。 其のためである。最初の晩は英語、次は地理、三日目は歴史、 供樂部には會長 其他各種の金銭的刑罰があるが何れも皆之は一般金庫の所得に加へられ 教育日課を怠つた時のみ刑罰を受ける。 彼の案内を受けて室の片隅に一共に腰を下ろした。 規定の誓約に服した者、他は自由會員で、 併し入會に際しては、一會員の申出でミ他の會員の有利なる證 書號, 同書, 病氣の時は一週七シルリング(二タアレル、八ジルベル、 當の方法で糧を得い 會計が居る。 會員には二階級の區別がある。その 何等疾しい行為を犯した事の無い者 倶樂部全體の最高原則とする 四日目は圖畵と物理 五日目 教育日課の時間だけ 彼は室の中に

吾々は指定の席に就いた。軈て客間は立錐の餘地も無い程一杯になつた。會長が開會の簈を述べ 自分は會長をよく見知つてゐるといふ譯ではないが、 怎り見ても醫者としか見えなかつた。

法に 達が國王の役人を殪せなかつた事を氣の毒がつてゐるメッテルニヒの外交を巧に且つ痛烈に攻撃し るゼスキット教徒と提携せよとまで勧告した。 た。愛蘭問題になると、 と農民とを互に睚合ひさせることに骨折で、 どか我慢も出來たが二三の個所では怎うしても我慢が出來なかつた。 されてゐるのを知つた。シャッパアはマドリッドの通信員の書簡の內容を報告したがい 的専制政治が 味のある。そして**教へらるゝ所が多かつた。演説の模様からして、本倶樂部の通信員が遠方に派遣** 何誰もそれに御異議はありませぬかと讀上げたが、 場水を打つ 主義者と金權貴族政治の反對者であり、更に進んで、 農民の味方をして、波蘭の愛國主義は單に極めて粗野な本能的衝動であると説き、卑怯にも貴族 レタリアの問題が終始彼の演説を貫く赤い絲であつた。實の所を云へば、自由主義の大部分は何 報道してゐる。固より當然の事ではゐるが彼の演說には到る所共産主義的色彩が濃厚に現はれて ルデブランド 依て全力の政治的支配を擴大せんとする金權的自由主義者と提携せんより寧ろその公然の敵 次いで直ちに日程に移りシャツバア君は前週間の事件の報告をする。 た様に静粛になると皆が口からパイプを取る、それから裁縫職人の書記が立つて、今日 クリスライナー派の寡頭政治のために颠覆された顛末を當時の新聞以上に仔細に亘 並にデーイゼンパッハ兩氏がシャッパア君の紹介で來賓として出席せられてゐ 彼は武力で血路を開いた人々の行為を是認した。獨逸の問題では、 隷屬關係を解くことが出來ない樣にして置き乍ら農民 その口振りの立派な事は眞實に羨しい程であつ 共産主義者に對し、 ガリチャ問題で 彼の演説は大變流暢で、深 その秘密の敵、 演説者は全 それは軍閥 彼は自 12 0

第二十一卷 分三七 ブルノオ・ヒルデブランドの一書館

らぬと。 **福のためにする善事の中にも最も明瞭なる利己主義を教へるものであるからである。人間** となれば此部分は(二)、人間を此岸より曖昧模糊たる彼岸に連れて行くものであり(二)、 指導者は 學で矛盾 で直ちに供樂部の信仰告白を知る事が 非常 で書記が立ってい 9 の演説 に詳細を極めたものであり、 出來る限り自己を教化し、 理性である。之が客觀的に進步的科學の裡に具體化される。それ故に人間は現存科學 するとの理由で抛棄されてしまつた。從て道德的部分は抛棄されてしまつたのである。何 は全く會衆に對して力强 基督教採否の討 總て行為に於いても思索に於いても所與の質在を固守せね 議をした前囘の共産主義者大會の議事錄を讀み上げ も總ての演説の主なる内容が悉く記載されてゐるので、 き印象を與へ、 出來 72 へれに依れ 急酸の相手が暫く鳴り止まなかつた。 ば基督教の獨斷的部分は科學即ち自然科 永遠の幸 の唯一の 共れ 僕は发 ば 0

之が の制度を定む可きかの問題が議題に上つた。その際、會衆の過半が夫婦者であ 之に次いで八日前旣に各自に通知されてゐた新しき問題、即ち共產國家に於い ため當時者 寸吃驚した。 放が全く葬られ、 は にされ 肉體的`精神的 るものであるとの議論を聞い 相方は平等の權 討議が序論の範圍を幾何も出でなかつた事は心殘りしたが、次いで婦人共有並に **寧ろ婦人を以て男子の精神を補ふものと論じ、結婚は道徳的制度であつて** 利を持てゐても、天賦の才能や運命や活動範圍の相異 人的政治的の た時には遉に緊張して傾聽した甲斐もあると思つた。 \mathcal{C} あり 生前 から施さなけ ればなら ることに氣が付 ては如何に見童 ぬと主張され せるため全く

膽に共産 棄がい アと くする中に次第に夜 倶樂部の規則にも亦會員の胸底にも深く根差してゐる樣に思はれた。 主義を辯護したものであった。 を二三冊買つた。その中に 員とも會ひ殊にシ 會て彼が何 が更けて來た 放自 生れの指物師で話をし は 瑞西のアウグスト◆ ので此問題の討議は來週に に反對するのであ 會衆は如何にも和氣觀々としている お前」といふ親みのあ 72 るか
乏
眞
面
目
に
な ベッケルの著書 次いで俱樂部の闘書室を参観してい 延期され つて議 も在つたがそれは最も大 720 論した。そ 生はそれから から **≥**

75

世界を勇敢に把へることが出來たのである。 者が プロレタリアで、 タア等の共産主義者の居る所 獨逸の亡命者が之に反對したために獨逸人の執權は大分遅れた、 先づ第一に僕の經驗した事は、シャパア、アウグスト・ベッケル 尙當夜の收穫や共産主義に就て僕の神經に感じた儘を、まどめて見ると左の如 共産主義の指導者となってゐるといる其理由は極めて明瞭であ 產 主義の指導者となつてゐるといふことである。唯巴里だけはファイシ Fein と云ふ最も勝れ も獨逸の大學で學び、哲學の影響の下に育ち、天惟思索の才を備へてゐるので新しき思想 である。 それこそ身に付けるものさては鐚一文も持たす。 從てプロレタリアの意識は彼等に最も濃厚に現てゐるのは當然である。その上彼 例之、偷敦、 加之彼等は又政治にも 瑞西・白耳義及巴里では獨逸の政治的亡命者が何れも D 住存競爭には迚も浮ぶ獺の無い 斯様に到處で獨逸の政治的亡命 相當の經驗を持ち、 る。是等亡命者達は正真正銘の マルクスト エンゲルス。 くである。 獨逸の民衆 シュ

光二十一卷 (八三九) アルノオ・ヒルデアランドの一書簡

あつた。 見た。かくて彼等の愛國的欲求及び理想が同胞提携の精神に變つたことは寧ろ極めて自然の成行で見た。かくて彼等の愛國的欲求及び理想が同胞提携の精神に變つたことは寧ろ極めて自然の成行で べ、七月王政に對する不滿、增大する金權貴族政治の壓迫、瑞西に於けるゼスヰツト教徒の運動を 間も無く他國の倹點や暗黑面に逢着した。 を持てゐた。彼等の政治的理想は實際經驗の賜物であると云ふよりも寧ろ哲學の畑で育つたので、 が政治思想に極めて無關心であることをよく知り、母國の國家的生活の改善に對しては或種の懷疑 即ち彼等は愛蘭の懊惱と英國の地主的貴族政治を考へ較

る事が出來る。 其處でアプリオリに、獨逸的要素の出現は共産主義の發展に何等かの影響無きを得ないと結論す 而もこの影響を特に知ることが必要となる。 僕は此點に關して次の樣 な結果を得

も信頼せず。寧ろ個人的のものと考へた事であらう』 奴隷制度に代る可きものである。全人類は物質的勞働否寧ろ物質的勞働の壓迫から解放さる可きで奴隷制度に代る可きものである。全人類は物質的勞働否寧ろ物質的勞働の壓迫から解放さる可きで ある。アウグスト・ベッケルは言ふ、 たことである。 第一、僕の大變愉快に堪えないのは獨逸の亡命者達が到る所で共産主義の中に科學の眞價を認め 物質的生活は今や精神的生活の手段たるべきものである。共産主義的憲法は古代の 雅典の滅亡は共産主義を知らなかつたからである。スペルタ ・・・・・でなかつたならば此言葉を少し 二九三七五、二三

- 1) 拙稿「共産黨宣言」前史の一齣参照三田學會雜誌第二十卷六號
- (11) Mehring, Geschichte der deutschen Sozialdemokratie. Derselbe, - Einleitung und Anmerkungen zu seiner Ausgabe von

den Kommunistenprozess in Köln 1914. Derselbe, Der Bund der Kommunisten, Neue Zeit 29 Jahrg Weitling, Garantien der Harmonie und Freiheit, 1908. Derselbe, " Aus dem literarischen Nachlass von Marx und Engels. Derselbe, Einleitung und Anmerkungen zu " Marx, Enthüllungen über Einleitung und Anmerkungen zur Jubiläumsausgabe von Ħ Derselbe, Karl Marx.

- $\frac{2}{5}$ Zur Vorgeschichte des Konmmunistischen Manifestes und der Arbeiterbewegung. Neue Zeit 37 Jahrg II
- der Arbeiterbewegung. X. Jahrg. 2. u. 3. Heft. Derselbe,--Marxanalekten. ebenda VIII. deutsche Kommunistische Diskussionen 1845. Archiv für die Geschichte des Sozialismus und
- Carl Grüberg, Bruno Hildebrand über den Kommunistischen Arbeiterbildungsverein